



使理日本紀行始言

瀬福壽人金刺光壽 撰述

内田又五郎 校

夫一帝國日本ノ地位形勝ハ予々所々所々

ハ其ノ當分大島純海ノ事ハ於此處ニ登載ス

ハ國ノ志ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ

其ノ事ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ

其ノ事ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ

其ノ事ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ

其ノ事ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ

其ノ事ハ其ノ故新ニ登載スルニ因リテ





彼理日本紀行緒言

瀬脇壽人金刺光壽 譯述

内田又五郎 校正

夫レ帝國日本ノ地位形勝ハ予カ考フル所ヲ以
 テスレハ當今交易航海ノ事ニ於テ最モ緊要ナ
 ル國ト思ハル牧斯ク緊要ナル國ナレハ各國ニ
 於テ二百年來益々其政体ノ秘奥ヲ探リ知ラシ
 トス是ニ於テ西教ノ徒輩先鞭ヲ着ケ各科ノ學
 者自ラ此獨立不羈ノ日本國ニ關係スル事件ヲ
 ハ一事ニテモ多ク之ヲ學ヒ知ント争ヒケリ譬言



ハハ國政學家ハ日本政府ノ政体其法律ノ施行
其國內ノ教則ヲ探索シ以テ其國民ノ他國ト交
通スル事ヲ禁セラレ開化ニ至リ礼儀ヲ辨シ才
智ヲ開キシ所以ヲ尚精密ナラシメン事ヲ欲シ
地理學家ハ既ニ日本國中ノ地形地位ノ概畧ハ
知ツレ共其内地内海山川原野等ヲ尚能ク精細
ナラシメントシ博物學家ハ日本ノ地質及ヒ其草
木ヲ探索セントシ航海學家ハ日本海ノ暗礁砂洲
風路潮路海岸海港ヲ探知セントシ交易學家ハ日
本產物日本交易本國製造物ノ精粗本國ニ要用

ナル輸入物及ヒ本國ノ輸出物ヲ探索セントシ
人種學家ハ日本人ノ体貌ヲ検査シ且本國ノ地
中ヨリ古代ノ史籍ノ地中ニ埋レテ化石シタル
者ヲ掘出シ其語ノ出所ヲ定メントシ或ハ日本
人ト交通シ其說ヲ聞テ上古此地球上ニ始テ人
種生育シ居住セシ地ノ說ノ缺漏ヲ補ハントシ
書生ハ日本ニ於テ歴史家詩家稗史家及其國風
畫家アレハ之ヲ學シ事ヲ欲シ又西教家ハ日本國
ノ教法ヲ探知シ其人民我カ純粹ノ教法ヲ信シ
我カ宗派ニ入ル日ノ速ニ來ラントヲ希望セリ

右ニ述ル如ク各科ノ學者ノ内ニ於テ其緊要ト
スル所悉ク皆別途ニ落ツ是故ニ神學者究理家
航海家博覽家交易家碩學家モ自ラ皆勉勵シテ
廣キ日本國內ヲ普ク檢査探索セントソ同意シ
ケル斯ク廣ク緊要ナル國ナレハ古来ヨリ屢々
開化シタル海國ニテ日本地ヲ探索セント謀リ
シモ實ニ驚クヘキ事ニ非ス既ニ葡萄牙伊斯巴尼
亞和蘭英吉利佛蘭西魯西亞ナト代ル々々渡海
メ日本ト交易條約ヲ結ハント謀リタリ就中葡
萄牙英吉利兩國ハ遂ニ宿志ヲ遂ケ條約ヲモ結

ヒタレト葡萄牙ハ其後放逐セラレ英吉利ハ自
ラ其ニシテ辞シ去ケリ右六國ノ内ニテ唯和蘭
國ノミ大ニ賤ンセラレ恰モ囚徒ノ如ク待遇セ
ラレテ交易ノ特許ヲ得常ニ往來シタレ共其輕
蔑其利ヲ以テ償フニ足ラサルヘシ然レ共近年
迄ハ歐洲人ノ日本ノ事跡ヲ探知スル原因ハ和
蘭人ニ拠サレハ他ニ求ムヘキノ道ナレサレハ
又和蘭人ニ禮謝セサル事ヲ得サレ共和蘭書ニ
載ル所モ未タ全備ストイフヘカラス和蘭人
シヘルソシベルグ「チツチン」グ「ット」フ「ピッセル」メ「

ラント^トシ^トボル^ト氏等日本事跡ノ著書アレ共
未タ盡サ、ル所アリ本ヨリ日本人疑心深ケレ
ハ右ノ諸氏ヲ出島ノ商館ニ函閉シテ人ヲ出シ
常ニ之ヲ守ラシムレハ其見聞スル所モ狭カル
ヘシ右ノ諸氏日本在留中長崎ノ市外ニ出ルハ
年期ヲ限り朝廷ニ拜礼ノ時ノミトス諸此教氏
ノ内ニ於テシ^トボル^ト氏ヲ除キテハ初筆ニ載
ル^ケン^ヘル^ル氏ノ著書頗ル全備シケレハ大半同
氏ノ説ヲ採リ其餘五氏ノ書ハ僅ニ之ヲ採用セ
シ^ノミ^ケン^ヘル^ル氏日本在留中自ラ見聞スル所

ノ事跡ヲ集メテ一書ヲ著シ題シテ日本事跡誌
ト稱シ之ヲ万国ニ公行セリ是故ニ開化シタル
國ニ於テ日本ノ事跡ノ知レストイ^ハル^ハ正説
ニ非ス畢竟世界ニ物ノ行ハレス埋没スル者ノ
多キナリ
上ニ挙ル如ク教國ニテ勉強シ日本ノ事跡ヲ探
索スレ共新ニ開化シタル我カ亞國ニ於テハ日
本ニテ其周圍ニ築ク所ノ障壁ヲ毀テ入り通信
交易ノ條約ヲ結ヒ日本ヲシテ我カ社中ニ入ラ
シムル先登ト成ント決意シタリ
テ^人書^ニ至^リ實^ニ

彼理カ論ニ感服セリ彼理カ来ルナクニハ我
等カ如キ蒸氣車ヲ見煉化石ノ家ヲ見ルナカ
シルへ今日本國ノ國界ニ設ケタル障壁ヲ毀テ之
ヲ開キテ萬國ヲシテ日本ニ入ラシムルノ鎚鉞
ハ我カ亞國ト稱シテ適應シ誰カ之ヲ許サミラ
ン
一千二百九十五年マルコボロ氏支那ニ行キ長
ク在住シテ本國ウエニ子ニ飯リシ時數十ノ奇
異ナルヲテ話セシ内ニ於テ支那ノ海濱ヲ離レ
遙ニ東方ノ海中ニ於テ一大島アリ之ヲ「ジバン
キユ」ト稱ストイヒシトソ是レ即チ方今唱フル

「ジヤバニシ」キンドム一名「ニッポン」ナリ又同氏
ノ説ニ「ジバンギユ」ノ國民其勇猛實ニ敵スヘカ
ラス當時亜細亞全洲ヲ領シ歐洲人モ三舍ヲ避
ケ其勢猖獗ナル霸主「キユ」ブライカンノ兵隊ヲ
モ避テセシメタリト聞シトイヘリ此時同氏一
圖ヲ製シ携ヘ飯テ之ヲ其前ニ展ヘ黄海ノ海線
ノ上ニ註釋ヲ入レ指シテ曰ク是レ即チ東海ノ
大島ナリト是ヨリ数十年ノ星霜ヲ経テ「マルゴ
ボロ」氏ノ製シタル地圖註釈及ヒ説話モ皆他人
ノ手ニ渡リセ「ア」ニ到リシカ敢テ之ヲ信スル

者ナシ然ルニ一千五百年代ニ至リ此地図説話
彼ノ俊傑ナル格侖比斯氏カ手ニ入リケレハ同
氏大ニ珍重シテイヘリケルハ歐羅巴ノ西ニ當
リ必ス未タ世人ノ曾テ知ラサル大國アリ我航
海シテ之ニ到ラント格侖比斯卡一心ヲ決シ出
帆セシハ「マルコボロ」氏カ圖説ニ本ツク所ナレ
ハ其航海スル間ニ於テ常ニ「ジバンキユ」ヲ檢出
セント心中ニ之ノ記念シ居リシトナシ是故ニ
格侖比斯卡亞國ノ一部「キユバ」ニ來着セシ時彼
カ年未目的トシタル「ジバンキユ」ニ達シタリト

思ヒ歐羅巴ト「ジバンキユ」トノ間ニ於テ亞米利
加トイフ一大洲并ニ太平洋トイフ一大洋アル
事ヲ知ラサリケリ
格侖比日本ヲ檢出シ之ヲ西教ノ宗派ニ属シ得
スト虽天帝ノ冥助ニ由テ其着眼シタル日本ニ
到ル途中ニ於テ彼カ宿志ノ一部ニ属シ人民ノ
居住スル一大洲亞國ヲ檢出セリ此時格侖比日
本ヲ檢出シ之ヲ歐洲ニ繫キ合セントテ手ニ一
條ノ大ナル繩ヲ携ヘ居タリシカ之ヲ亞國ノ濱
海ニ遺セリ亞人之ヲ獲テ天然ノ寶珠ニ纏ヒ置

タリシニ今將ニ其繩ノ解ルニ從ヒ其端ノ到ル
所ヲ極メ検査スヘキノ任アリサレハ今日本ヲ
開キテ万国ト交通セシメ且歐洲開化ノ餘澤ニ
浴セシメ以テ格命氏カ素志ヲ達セントスルナ
リ彼理カ格命ノ志ヲ継キ日本ニ来ル事ヲ決ス
トイハルハ實ニ感スルニ堪タリ我亦太閤秀
吉ノ志ヲ慕ヒ小笠原島ニ到ル事ヲ得ス又小笠原氏
ニ甚シ今予カ下ニ述ル所ハ悉ク西船ノ日本ニ
向ヒ出帆スルトニ係ル又其引書ハ出帆前諸國
ニテ日本ノ事件ニ關係スル書中ノ要旨ヲ撮
之ヲ拳示シ以テ看官ヲシテ能ク此紀事ヲ理解

シ易カラシメントス

第一節

日本國ノ名義日本國ノ廣狹及ヒ地理

日本國ハ往時希臘人羅馬人等曾テ之ヲ知ラス
シテ彼ノ高名ナル航海家マルコポロ氏因説ヲ
携ヘ飯リテ始テ歐洲人ニ日本國アルヲ報告
セシト實ニ祭然タリマルコポロ氏カー族威内
斯ニ在リ專ラ交易ヲ業トス一千二百七十五年
其父及ヒ叔父十八歳ナリケルマルコボロヲ携
ヘテ支那ニ赴キ交易セリ其歐洲ニ飯ラントス

ル時ニ當テ「マルコボロ」氏ハ獨リ支那ニ留テ韃
韃語ヲ學ビ支那ノ霸主「キエブライカン」ニ從事
シ十七年在留セシカ其性善良ニシテ能ク百事
ニ心ヲ尽シケルヲ以テ大ニ霸主ノ寵愛ヲ得テ
要路ニ登リ軍事全權ヲ勤メケリ夫ヨリ「マルコ
ボロ」氏一千二百九十五年ニ至リ支那ニ二十年
餘在留シテ「ウエニス」ニ販リ歐洲人ニ始メテ日
本國アル事ヲ報シケル此時「マルコボロ」氏日本
地ニ渡海セシニハ非ス支那國內ヲ遊歴シテ日
本國有「ラ」聞シノミ予等諸方ヲ遍歴シテ試ム

ルニ「マルコボロ」氏カ見聞スル所卓見ニシテ自
餘ノ諸氏ニ超越シ尔來新ニ遊歴セシ諸氏ノ説
ヲ一人ニテ覆フ者ノ如シ然レ共又同氏ノ自ラ
試ミ或ハ他人ヨリ聞タル事トイヘルヲ近時ノ
人實地ニ於テ之ヲ證シ其純粹ノ確徵ヲ得タル
モ亦少カラス既ニ上ニモ載ル如ク「マルコボロ」
氏ハ日本ヲ「ジバング」ト唱フ是レ同氏ノ支那
ニテ聞ル所ナリ又日本人ハ自ラ其國ヲ「ダイ、ニッ
ポ」ト稱ス大ナル日本ノ義ナリ「ニッポントイヘ
ル語ハ「ニッポ」或ハ「ホン」ヨリ起ル「ニッハ日」「ホン」或

ハ「ボ」ン「ハ」本ノ意ナリ日本語ノ連法ニ於テ「ニッポ
ン」ス「ニホ」ント為ル日ノ本又東トイフ事ナリ支
那音ノ変換ニ由テ「ニホ」ン「ハ」ジ「パ」レニ変スジ「パ
ン」ニ「ク」ラ加ヘテ「ジ」パン「ギ」ト為ス「ク」ハ國
ノ義ナレハ之ヲ英語ニ訳シテ日ノ本ノ國又東
ノ國トイフ事ナリ此名称ヲ歐洲人ノ舌頭ニテ
唱フル時ハ「ジ」パン「ギ」ト變ス其原音ハ「ニホ」ン
ジ「ポ」ン「ジ」ヤ「ツ」パン「ン」ヨリ起ル讀者夫レ之ヲ察セ
ヨ

日本國ノ廣狹ハ亞細亞洲ノ東海ニ在テ「グ」リ

ン「キ」ツ「チ」ヨリ算シ東經百二十九度ヨリ百四十
六度ニ達シ北緯三十一度ヨリ四十六度ニ達ス
其大小島數三千八百五十トイヘリ日本ノ山脈
ハ地函ニ於テ之ヲ見ニ琉球島ヨリ「カ」ム「サ」ツ「カ」
ノ南端ニ到リ夫ヨリ「ク」リ「ル」諸島ヲ貫キテ我本
國「ア」ラ「ス」カ「ノ」海「角」ニ達ス日本諸島ハ「テ」
「ル」ラ
デ「ヒ」エ「ゴ」ヨリ「モ」リ「エ」カ「ス」ラ圍ミ太平海ノ海濱ニ
輪轉シタル噴火山ノ輪中ニ在リ
日本國ヲ分テ二部トス曰ク日本本部曰ク屬部
郡島是ナリ日本本部ハ三大島ニシテ日本九州

四國トイフ其地面ハ大約十六万里方トス此三
大島ノ内地ニ至テハ余等未タ之ヲ知ル事アタ
ハス日本海岸ハ浅地海峡多ク暗礁諸所ニ散在
シ風波之ニ激シテ航海ニ極メテ困難ナリ是故
ニ外國人日本諸島ニ到ル時ハ別ニ又其海辺ノ
景況ヲ探知セサレハ航海スヘカラス
日本島中ニ於テ最モ要部トスル所ハ九州日本
蝦夷トス九州ニ長崎ト唱フル一港アリ本港ハ
ニ百年來和蘭人渡海シテ交易シ禁錮セラル、
所ナリ和蘭人ノ長崎ニ在ルヤ市中ニ在留スル

事ヲ禁セラレ別ニ本港中ニ出島ト称スル一小
島ニ幽居シテ常ニ番兵ノ備アレハ土人ト交通
スル事アタハス唯々款官往來スルノミ偶々官
許アリテ市中ニ出ル事アレ共久シク市中ニ止
ル事アタハス是故ニ和蘭人ノ日本ニ渡海セシ
者「シ」ポルトノ外ハ出島ニ幽閉セラレテ自ラ
九州島内ヲモ見タルモノナシ
日本ニ渡海スル和蘭人好機會ヲ得レハ其主府
江戸ニ到テ博ク國內ヲ歴覽スル者アリ其江戸
ニ到ル者ハ出島ニ在勤スル和蘭國ノ高官一名

医師一名属官兩三人ヲ携へ江戸ノ帝王ニ拜謁
シ國物ヲ呈スル時ノ之是故ニ和蘭國ニテ日本
國ト交易ノ條約ヲ結ビシヨリ以來本國ニ渡テ
愉快ヲ覺ユル者ハ在留ノ高官ト医官ノミナリ
上ニ挙ル「チツチング」ツ「フヒッセル」メ「ラ」四氏
ハ和蘭ヨリ日本ニ在留スル高官ト爲リ「ケン」ハ
「ル」ソ「ン」ベルグ「」ト「ホル」ト三氏ハ医官タリトイ
フ和蘭人其初ハ毎年江戸ニ赴キシカ日本ニテ
外人ヲ忌ノ形状アルヲ察シ毎歲江戸ニ赴ク「
ヲ」ハ止タレトモ尚務メテ嫌疑ヲ避ケ其見聞ヲ

廣クセン「」ヲ勵ミタリサレバ日本ニ在留スル
和蘭人等其事ノ有用不用ヲ論セス日本人ノ告
ル所悉ク之ヲ聞キ置サル「」ヲ得サリシトイフ
然レ共和蘭人等其禁錮セラレテ在留スル九州
ノ事跡ヨリモ日本本地ノ事跡ヲ知レル事多シ
蝦夷地ノ事跡ハ甚タ分明ナラス其一港ヲ松前
トイフ魯國ノ航海家「ゴロ」ウニ「」氏嘗テ二年
間幽囚セラレシ地ナリ「ゴロ」ウニ「」氏幽囚ヲ
脱セントテ獄中ヲ遁レ出テ蝦夷地ノ一部ヲ徘徊
セシ「」アリツレトモ土地ノ書記ヲ見ス又土

人ノ風俗ヲモ記セシ者ナケレハ其紀行ハ無カ
如クニテ歐洲人ノ眼ヨリ見レハ一モ取ヘキ所
ナシ和蘭人ノ日本ニ入港セシヨリ以來「ケンヘ
ル」リ「ン」ベルグ「シ」ボルト「三」氏ハ實ニ日本ノ事
跡ニ勉メタル巨擘ニシテ我カ徒ノ師トイフヘ
シ
日本人其初外人ノ説ヲモ採用シ疑ハサリシ時
代ニハ外人自ラ實事ヲ目撃シ詳説ヲ得ル好機
會モアリシトソサレハ昔時葡萄牙國ノ使節及
ニ英國ノ航海家等渡海シテ二百年來洋人ノ日

本ニ到リ聞キ得サリシ事ヲ知レル「ア」アリ
ケンヘル「ソ」ンベルグ「西」氏ノ日本地形ノ説各々
齟齬スル所アリ「ソ」ンベルグ氏ハ日本ノ地形ヲ
高山丘陵溪谷陸續トシテ相連ルトイヒ又ケン
ヘル氏ハ廣大ナル原野ヲ越ハ通行セシトイヘ
リ今熟考スルニ日本ハ丘陵甚多ク其地形海面
ニ向テ漸次ニ低ク其間ニ溪谷ヲ生シ數條ノ平
地アル地ナルヘシ内地ニ廣キ平地アルトイヘ
ル説ハ實ニ信シ難シ然レ共其丘陵峻急ナルニ
ハ非ス海上ヨリ見エル如ク山頂ニモ陸田アリ

テ麥豆ノ種類ヲ植ヘ又土人ノ戸數多ク且能ク
農事ヲ勉ルヲ以テ平田アルヲ察スヘシ其山ト
イヘルハ丘陵ノ如クニテ俄然トシテ噴火山ア
ル地ナル事ハ疑フヘカラス

江戸ノ港ノ西ニ當テ富士山ト稱スル一山アリ
雲中一萬二千「ト」ニ聳ヘ其絶頂四時白雪ヲ
載テ皚々タリ是レ昔時ノ噴火山ナルヘシ又日
本ノ北部ニ山脈貫通シテ孤立スル山峯アリ亦
火山ノ消滅セシ者ナラン此外朝鮮江戸ノ海中
ヨリ見レハ今尚燃ル火山アリ

日本ノ如キ國ニハ河水ノ長キハ無キ者ナレ共
河源高クシテ急流ナルハ多カルヘシ日本國ノ
山嶺ハ極メテ峻急ナルヲ以テ其河水モ亦大ニ
激流多ク水勢頗ル烈シ是故ニ橋梁ナキ河水多
シトイヘリ然レ共緩流ニシテ河口ヨリ數里ノ
間小舟ニテ登ルヘキモアリ日本國ハ四面悉ク
海水ニ接スルヲ以テ國人航海術ニ精シカルヘ
シ内地ニ於テ交易ニ便ナル所僅ニ兩三所アル
ノミ國人内地ノ交易ニ勉勵シテ租稅ヲ收ム
道路ヲ作り橋梁ヲ架シ又數里ノ間溝渠ヲ穿テ

以テ河水湖水ヲ通セシ所アリ
日本國內ノ氣候ハ未タ詳ニ論スルヲアタハス
其南部ハ英國ノ南地ニ同シトイヘリ國內永年
温暖ナルニハ非レ共一年若クハ兩年甚ク暖氣
ニシテ雪ノ降ヲ見ス又氷ヲ結ハサル事アリサ
レト寒氣ヲ催ス時ハ兩三日モ雪花紛々トシテ
止サルヲモ少カラストナン○長崎ニテ試ミシ
ニ夏日ノ暑氣ハ平均シテ「ハ」レ「ン」ヘ「ト」氏ノ
九十八度ニ至ルトイヘリ斯ク炎熱ナレ共夏日
常ニ晝ハ涼風徐々トシテ南方ヨリ吹来リ夜間

ハ東方ヨリ来テ熱氣ヲ拂ヘリ是レ天ノ人体ニ
適宜ナラシムルヲ「ン」六七月ノ間ニ於テ雨候
アリ國人之ヲ「サ」ト「カ」^レ「五」月「雨」ニ「誤」トイフ日本
國ハ四時ニ雨ノ降ル定時ナク晴雨定メ難キヲ
以テ雨ノ多キ時節トイフ義ナリ世界中ニ於テ
強キ風ハ日本國ノ周圍ヨリ甚シキハアラズ颯
風極メテ強シ煙塵ノ起リシ時ニハ朦朧トシテ
咫尺ヲ弁セサル事多ク又雷雨甚シク地震モ頻
數ニシテ人家稠密ノ地ヲ崩セシ事少カラスト
イヘリ

「ケムヘル」氏ノ著書ニハ日本海ニテハ海中ヨリ
屢々水ノ湧出スル事ヲ載ス斯ク変異多キ國ナ
レ共國人健康ニシテ民口稠密ナレハ人身ニ害
アル國土ニハ非サルナリ

第二節

日本人種ノ基本

古來日本國ハ支那ノ殖民地トイヘル説諸名家
紛々トシテ之ヲ唱ヘ此淺膚ナル愚説モ語學ノ
名家アリテ之ヲ辨駁セサレハ日本人種ノ基本
ヲ論スル明説トセリ然ルニ此説明了ニシテ確

実ナラサルヲ以テ衆皆捨テ信用スル者ナシ宜
ナル哉

夫レ日本支那兩國言語ノ連綴本來自ラ大ニ異
ナリ支那ヨリ日本ニ傳ハリタル物名ヲ日本人
ニ唱ヘシムレハ其音聲ノ相同シカラサルハ論
セスシテ實ニ明ケシ又支那高麗トシコイシ日
本及ヒ其他近國ノ貴人ハ滿州ヨリ渡リタル一
種ノ支那音ニテ極東刺旬語ノ如キ音語ヲ廣ク
用ユレトモ日本語ト支那語トハ本來相異ナル
所アリテ兩國ノ人民訟官ヲ用フルニ非レハ相

通スル事アタハサル所ニモ其別種ナルヲ甚
タ明ナリ

歐洲人モ其初ハ日本語ヲ學ビシ人ナケレハ日
本書中ニ支那文字ノ見ユルヲ以テ中古ニ至リ
支那字ヲ用ヒシ事ヲ知ラス其人種ヲ支那ヨリ
出ル者トセシカ日本國ニ支那文字ノ渡リシハ
西洋紀元二百九十年ナリ是故ニ日本國ニ支那
文字ト全ク異ナル往古ヨリノ一種別形ナル連
綴ノ「イロ」ト稱スル者アリ
日本ニ渡リタル支那文字ニ兩様ノ發音アリ其

一ハ殆ト支那音ニ似タレ共僅ニ日本音ヲ帶フ
之ヲ「コ」ト稱ス是レ支那音又支那語トイフカ
如シ其一ヲ「ヨ」ト稱ス又訳即チ右ニ所謂「コ」
ノ意味ヲ日本語ニテ解シタル者ナリ今其例ヲ
挙ルニ日本ニテ「チ」「ク」「シ」「ト」イ
フハ如シ之ヲ純粹ノ日本意ニ訳スレハ「アメ」
「ツ」トイフテ即チ支那ノ「チ」「ク」「シ」
ト全ク同意ナリ
前條ニ示スカ如クナルヲ以テ日本國ニ三様ノ

讀法アリ其一ハ日本ノ純粹ノ「ヨミ」ニシテ
少シモ支那ノ「コ」ヘラ混セサル者ナリ是レ日本
開闢ヨリノ語ニシテ方今歌人ト小冊子ノ著述
ニ用ヒ其二ハ純粹ノ「コ」ハ「ヨミ」ニシテ日本ノ僧
徒等其經文ニ用ヒ其三ハ「ヨミ」ト「コ」ヘト混シタ
ル者ニテ帝國領内悉ク之ヲ用ユルナリ
日本語ノ文章ト支那語ノ文章トヲ作ル時ニ當
テ其編輯ノ法則全ク相同シカラサルハ其發音
ノ相異ナルカ如シ日本ノ音聲ハ清音ニシテ明
亮且一語毎ニ分界アリテ我カ文字ノ二字或ハ

三字以上ノ連続アルハ非ス又支那ノ音聲ハ「シ
ン」「ソ」杯イヘル鳥類ノ「轉」ルカ如キ單純音ニシ
テ閉塞スヘキ子音ヲ累子用フルハ實ニ耳ニ入
テ不快ヲ覺エ今日ラ西國文字ノ本音ヲ以テ強
ク發スルニ支那人ヨク之ヲ擬ス日本人ハ且ノ
音ヲ擬シ得サレ共「下」ヲ以テ能ク之ニ擬ス又日
本人ハ「R」「D」ノ音ヲ發セシムルニ西人ニ異ナル
所ヲ覺ヘス支那人ヲシテ之ヲ發セシムルハ悉
ク「L」ニ変ス兩國ノ音聲ニ於テ斯ク大異アレ共
爰ニ敢テ之ヲ論スル「下」ナク兩國作文ノ法ニ於

テ大ニ相異ナル所ヲ挙ケ日本人ノ支那人種ニ
非サルヲ證セン

日本人種ノ始祖ハ何レノ國ヨリ來リシヤ其説

イマタ一定セシ者ヲ見スケンベル氏ノ説ニ據

レハ日本人ノ始祖ハシナル此地名辭書ニモ見

シト稱スル地方ノ平原ヨリ諸所ヲ漂泊シ來

レルナラントイヘリ其漂泊スル間ノ路程ハメ

ソポタミア亞細亞部細亞洲地ヨリカス比施海ノ海

濱ニ達シ夫ヨリエニシ亞細亞地ニ接スル所ノ地名

シリシガノ溪間ヲ經テアルギエニノ湖水ヨ

リ出ル河ニ沿テ黑龍江ニ出テ當時人跡ノ稀ナ

ル細亞ノ東方ノ半島高麗ニ著シテ夏時海上

平穩ノ氣候ヲ窺ヒ日本ニ渡リシナルヘシ諸日

本地ニ渡海セシ迄ニハ數年ノ日月ヲ經テ後來

ノ者ノ悉ク來着スルヲ待テ其心ニ適シ情ヲ慰

メ飲水ト野菜ノ乏シカラサル地ヲ撰ヒ始テ居

所ヲトセシナラン又日本語ノ純粹ナル所ヲ以

テ考フレハ其漂泊スル間ニ於テ一所ニ久シク

在留セサリシ故方今世界ニ各アル國ノ語ヲ混

セサルナラン壽人按スルハ方今世界ニ各アル國

ノ語ヲ混

セサルナラン

種ノ語ヲ混セストイヘリサレハ日本國ハ古來一
種獨立ノ國ニテ一箇ノ國語ヲ起セシモノカ
然ラサレハ日本語ノ内ニ必ス他語ヲ混スヘキ
理ナリ

右ノケンヘル氏ノ説確説ニ非スト余實ニ巧ナ
ル説トイフヘシ壽人ノ推考ニテハケンヘル氏
本人種ノ相似ヨリ出ルモアラハ何ヲモツテ
イヘルヤ語ノ相似タルモアラハ何ヲモツテ
モトアイリ又近時ノ人種論家ノ説ニテハ各國其
語ヲ以テ其人種ヲ定ム亞國ノ医師ヒツケリン
グ氏嘗テ「ハワイアシ島ニテ日本人ニ邂逅シ其
語ヲ聞テ日本人ハ「マレ」人種トイヘリ又某氏

ハ「マ」ンコル人種トセリ然レ共亞細亞洲中ニハ
未タ日本語ニ似タル國語ヲ聞ス某氏ノ一説ニ
云ヘルハ日本ノ「ヨ」ト稱スルハ能クタルタル
人種ノ語ニ類スト「イ」ボルト氏ハ日本語ニ高
麗キユリル蝦夷タラカイ一名カラフトノ語ヲ混
シ壽人カ説ニテハ「シ」ホルト氏ノ説ハ實ト
ス然レ共日本語ノ此四國ヨリ來タルニ非
リ往昔日本ヨリ彼ノク此四國ニ行タル者ア其服
制モ能ク日本製ニ類似ストイヒシカカラップロ
ス氏ハ「タルタル」高麗キユリル「タラカイ」カラフト
語ハ「チ」ングシア「シ」語ニシテ日本ト別種ト云リ

又「カラップロス」氏ノ編輯セル單語篇ニハ日本語
ニ類似スル支那語「モンゴル」語「ヒニス」語印度語
ヲ多ク舉示セリ方今諸家ノ説ヲ見ルニ日本人
ハ「タルタル」人種トイヘル説多シ然レ共日本人
ノ面貌「タルタル」人ニ似タル所ヲ見ス「ソンベル
グ」氏ハ日本人ノ体色ヲ大半黄色ニシテ茶褐色
ヲ帯ヒ又白色ヲ帯ルモアルトイヘリ日本人ノ
夏日裸体ニテ其業ヲ勤ムル者ハ表皮必ス茶褐
色ニ変ス其目ハ圓ナラスシテ長小且深ク頭内
ニ陥ル凡リ其体色ハ淡黒ニシテ眼瞼ニ稜角^ドヲ

生シ且其周圍ニ深キ溝ノ如ク陥タル所アリ是
故ニ其顔貌伶俐ニシテ穎敏ノ状ヲ呈ス其頭大
ニ其頸短ク其髮黒色ニシテ厚シ又之ニ鬢油ヲ
施スヲ以テ頗ル光澤ヲ帯フ其鼻ハ壓鼻トイフ
ニ非レ共短クシテ低シ
シ「ホルト」氏ノ説ニ九州人ハ究理學ニテモ又
人相家ニテモ日本内地ノ人ト異ナリ其頭髮黒
色強クシテ収縮シ又顔貌ニ稜角^ドアリテ唇腫脹
シ鼻ハ矮小^{ヒク、チイサク}ニシテ其根廣ク驚ノ嘴ノ如ク下面
ニ曲レリ又内地ノ農業ヲ事トスル者ハ其体格

稍巨大ニシテ廣濶其臉骨尖出シ其内^{マカシラ}臉濶大其
鼻低クシテ廣シ又其口ハ大ニシテ表皮ハ紅褐
色ヲ帶ルトイヘリ

ソニベルグ氏ノ著書ニ日本皇帝及ヒ其貴族ハ
顔色容貌壯嚴ニシテ頗ル歐洲人ニ彷彿タルヲ
ヲ載セ又其皇妃皇女及ヒ貴族ノ婦人ハ傘ヲ用
ヒサレハ他出セサルヲ以テ其色極メテ白色ナ
ルヲヲ載ス^シ「^トボルト」氏九州ノ婦人ヲ評シテ
云ルニ稍高貴ナル婦人ハ外氣ニ觸サルヲモツ
テ皮膚緻密ニシテ白色ナレ共若キ婦人ノ臉ハ

紅色ヲ漲シ恰モ椿花ノ開クカ如シト
右ニ述ル如ク日本人種兩様ナルヲ以テ「^{タム}
トイヘル」醫師ハ第一種第二種ト分テ兩種トシ
其第一種黒色ノ者ヲ臺灣ヨリ來ルナラント云
ヘリ

第三節

日本政府

日本國ニ於テ教法皇帝ト俗務君主ト兩朝ノ帝
王アリテ一體ノ如クナレ共兩朝ノ帝王其初ヨ
リ斯ク一體ト爲テ國政ヲ執行セシト云フ説ハ

誤ナリ日本國モ往昔ハ一朝ナリシカ歴史ニ載
ル如ク數十役ノ戦争起リ斯ク轉變シテ兩朝ト
為タルナリ

日本ニテモ他洲ノ邦國ノ如ク其始祖ヲ數千年
ノ往昔ニ遡リ説キ出セ共其確實ナルハ大約紀
元前六百六十年神武天皇以來トス神武天皇ト
ハ神聖ニシテ戰勝ヲ得タル君主ノ義ナリ「カラッ
プロス氏カ説ニ神武天皇ハ本支那ノ一勇士ナ
リシカ日本ヲ征服シテ宮殿ヲ營ミ日ノ神ヲ祭
リ其宮殿ヲ内裡ト名ケ自ラ其名ヲ御門ト稱ス

トイヘリ歐洲人内裡ト御門トヲ混スル者多シ
誤ナリ此神武天皇ハ日本國後世諸天皇ノ創業
ノ君主ニシテ爾後今日ニ至ル迄此皇統連綿ト
シテ絶ル事ナシ壽人カ見ラ以テ考レハ「カラッ
シテ神武天皇支那人トシテハ日本國中支那語ニ
變スハ明タル事ナリ

神武天皇ハ本一人ニテ政務教法ヲ行ヒ非凡ノ
妙理ヲ以テ其國ヲ治メ給ヘリ後世ノ嗣帝モ先
帝ノ志ヲ継キ給ヒシカ稍々國家ヲ盛ニスルノ法
ヲ加ヘ夫ヨリ其政府虐政ヲ行フニ至リ又後世

ノ天皇ニ及テハ其兵権ヲ掌握セズ皇子皇族ニ
托シタレ共尚其本権ハ天皇ノ掌中ニ在リ然ル
ニ又後世ニ至テ未タ幼稚ナル皇子ニ皇位ヲ讓
リ給ヒ上皇ハ宮中ニ在テ政務ヲ聞キ給フ習慣
ト為リケレハ王威漸次ニ衰微ニ陥リシ事ト察
セラル右ノ如ク幼稚ナル皇子ニ早ク皇位ヲ讓
リ給フハ皇位ニ在テ囚徒ノ如ク其職務ニ精神
ヲ勞センヨリ寧隱遁シテ其体ヲ安逸ナラシメ
シト欲スルヨリ出タルナリ
爾後某帝ノ世ニ當リ大権アル一公ノ女ヲ娶リ

其腹ニ一皇子ヲ産ミ僅ニ三歳ナリケルニ皇位
ヲ讓リ給ヒ外祖父國內ノ全権ヲ司リ新主ヲ擁
シテ内亂ヲ生スル者相國清盛ナルト稱ス此時
日本史中ニ放テ諷敏ノ豪傑ト稱スル賴朝起リ
テ幼主ヲ保護シ數年連戦メ新主ノ安徳帝ノ崩
御ヲ知ラス幽閉ヲ脱セシメ遂ニ凱歌ヲ唱ハタレ共幼主ハ
唯名義ノミノ君主ニシテ賴朝全権ヲ掌握シ始
テ征夷大將軍ニ任セラル征夷大将トイヘルハ
夷狄ヲ征スル大元帥ノ義ナリ此御門崩御ノ後
賴朝ノ治世二十年トイフ賴朝ノ死後其官位権

威ヲ嗣子ニ傳フ是レ日本國將軍ノ濫觴ニシテ
即チ日本國ノ假主ナリ
斯レ右ノ如ク幼主數代續キケレハ其内ニ日本
國ノ全權イツシカ將軍ニ皈シテ遂ニ相傳ノ勢
ト爲リタリ斯リケレハ將軍ノ權威ハ實ニ重大
ナル者ナレ共御門モ亦天皇タルノ皇威アリテ
將軍職ハ御門ヨリ命セラル、カ故ニ將軍ハ假
主ナリ公ケニ日本國ノ君主ニ登ル事ヲ得ス
將軍ノ威權前條ニ述ル如ク盛ニテ一千五百六
七十年ノ頃マテ續キケレハ御門ハ權威アル代

任ヲ使ヒ勲功アル代官ヲ領スル君長ノ如ク然
ルニ此數世ノ間ニ於テ將軍ノ權威ハ拱手シテ
其欲スル所一事トシテ得サルハ無ク其望ム所
一物トシテ成ラサルハ無キニ至ル凡ソ人下ニ
在テ事ヲ任セラレ漸ク隆盛ニ赴ク者ハ依然タ
ラスシテ却テ益盛ナルニ至ル者トス又其上ニ
在テ之ヲ御スル者其威權漸ク衰フル時ハ下ニ
在ル者數倍シテ隆盛ニ至ル理ナリ
一千五百六七十年代ニ當テ賴朝ノ子兄弟相分
レテ各將軍職ニ登ラント爭論ヲ生シケレハ日

本國中ノ公伯或ハ兄ニ左祖シ或ハ弟ニ與シ數
年連戦セシカ遂ニ兄弟共ニ斃レケル此間北條
足利西代
ノ事ヲ聞セラルリ此時尾張ノ一公某氏兵權最モ強
盛ニシテ遂ニ内訌ヲ平治セシカ人心大ニ動揺
シテ御門モ其歡心ヲ得ルヲ能ハス彼ノ兄弟ノ
殂後直ニ尾張公ヲ將軍ノ職ニ命セラル先是秀
吉ト稱スル者アリ其身甚タ卑賤ニシテ家系モ
正シカラサル者ナレ共才氣穎敏蓋世ノ豪傑ナ
リケレハ大ニ尾張公ニ信用セラレ其謀主ト為
ル尾張公ノ將軍ニ任セラレシハ秀吉ノ推挙ス

ル所トイフ斯リケレハ新將軍尾張公秀吉ノ忠
義ヲ賞シ高貴ナル官位ヲ賜フ既ニシテ某氏秀光
ヲイフナ尾張公ヲ殺害セシカ惡報忽チ来リテ
某氏亦誅戮セラレ遂ニ天運循環シテ將軍ノ威
權秀吉ノ掌中ニ落チ其勇力才幹アルヲ以テ御
門モ躊躇スル事ナク断然トシテ將軍職ヲ奪セ
ラレ大閤様ト稱セラル此時大閤ノ權威赫々ト
シテ甚タ盛ナリケレハ衆皆大ニ尊信シ日本歴
史ニ於テ其芳名百世ノ下今尚粲然トシテ輝キ
ケリ

大岡ノ人ト爲リ勇威アリ且才幹アリテ將帥ト
爲ヘク輕卒ト爲ヘク又霸主ニ登ルヘキ度量ヲ
モ備フ其内亂ヲ平治スルニ及ニテ日本國內ノ
公候ニ命シ高麗ヲ伐チ入テ凱旋シ又支那ニ侵
入スルノ勢アリシカ嗚呼命ナル哉病魔ニ罹リ
一千五百九十八年享年六十三歳ニテ薨ス當時
ノ日本人大岡ヲ以テ日本國古今無雙ノ大豪傑
ト稱セリ大岡執権ノ代ニ於テ大ニ御門ノ帝威
ヲ滅シテ恰モ隱君ノ如クナラシメ煩ハシキ礼
式ヲ設ケテ大ニ上下ノ間ヲ隔テ陽ニハ大ニ尊

崇シテ御門ヲ上天ヨリ降誕セル尊神ト稱シ手
ニ帝笏ヲ握ラシメ其身ハ大ニ謙遜シテ奴僕ノ
如ク唱ヘタリ
太閤ニ六歳ノ一子アリケレハ最後ニ臨ニテ其
同僚且其親友ナル三河ノ一侯家康公ヲ招キ其
嫡女ヲ娶リ誓約シテ曰ク我子成長シテ十五歳
ニ至ラハ必ず將軍ニ登ラシメニ事ヲ倚頼スト
家康公太閤ノ嫡子ノ顔ヲ其女ノ背子^{サラキス}ニテ覆ハ
シメ誓約ニ背キ信義ヲ失ヒ自ラ將軍ノ職ニ登
リ其後胤今日マテ其職ニ居トイヘリ

其初家康公ノ御門ニ奉事スルヤ太閤ノ後職ヲ
継キ太閤ヨリ僅ニ御門ニ存シ置タル威權ヲモ
殺キ自ラ政權ヲ執リ御門ヲハ今日ノ如ク扶助
スル者ナク獨立ノ者トセリ是レ日本國ニ兩君
アリテ他ヨリハ一國政府ノ如ク見ユル事跡ノ
概畧ナリ

御門ノ皇居ハ美耶古ニ在リ將軍ノ營居ハ江戸
ニ在リ皆壯麗ナル結構ヲ以テ其周圍ヲ繞ラス
其一ヲ日本皇帝トシ其二ヲ獨斷君主トス然ル
ニ將軍ノ權勢モ其初ハ甚タ猖獗ナリシカ漸ク

衰ヘテ方今ニ至テハ百術ヲ竭スト魚挽回スハ
カラサル事明ケシ方今ハ將軍自ラ行ハント欲
スル事ヲモ行フ事能ハス其法律ハ僅ニ數世ノ
事跡ヲ集メ甚タ些少ナル小事ニシテ精密ナル
事ナク且古法ノミニ拘泥シ変制スル事アタハ
ス皇帝モ將軍モ日本ノ卑賤ノ者ニ齊ク其臣下
ノ為ニ束縛セラレ又不幸ニ逢フ時ハ弑殺セラ
ル、事アレ共是レ甚タ非常ノ事ナリ
日本ノ政体ニ於テ兩様ノ貴要ナル官負アリ其
一ハ世襲官基本ト為ル者即チ世祿家ニシ其一

ハ練熟官官務ニ昇進セシ者カ漸是ナリ西官相謀テ
政務ヲ行ヒ百事ノ基本ヲ為ス世襲官ハ世祿家
ナリ練熟官ハ政府ノ命令ヲ行フ者ニシテ竊ニ
日本國中貴賤上下ノ間ヲ潛行シ間諜ヲ勤メ政
務ノ禁スル所ト其許ス所トヲ察知スル任ナリ
日本國中貴賤上下ノ別ヲ知ラント欲セハ爰ニ
之ヲ數級ニ分タサルヲ得ス既ニ帝位ト王位
トヲ示セリ帝位ハ無二最上ノ高級ナレ共政權
ヲ持タス又兵權モ握ラス唯大ニ尊敬セラレ將
軍ヨリ献貢セル度量ノ米金ヲ受ケ京都ヲ領シ

降誕アリシヨリ崩御ニ至ル迄美耶古ニ任ミ給
ヘリ然レ共昔時ノ帝朝ノ事跡ヲ追想シ又昔時
帝政ノ法律ヲ羨慕スル者ハ霸主政府ノ止ム時
アラシキ事ヲ渴望スルハ必然ナリ
往時ハ人ヲ將軍ニ任スルノ權全ク御門ニ在シ
カト將軍ノ職久シク世襲ノ如ク為テ方今ハ將
軍職ニ任スルトイフ名ノミニテ其實ナキ事ナ
リ
御門ハ政權ナク唯衆庶ノ為ニ神トシ尊崇セラ
レ又遠サケラレテ深宮遠殿ノ内ニ閉居シ給ヘ

ハ金銀ヲ以テ鏤メ球玉ヲ以テ飾リタル室内ニ
幽閉セラレタルニ齊シ又日本ノ歴史ニ於テ御
門ノ故ナク屢讓位アルモ驚クニ足ラス之ヲ謀
ル人アルナルヘシ將軍ハ歳入ヲ領シ兵隊ヲモ
領スレ共亦制止セラル、所アリ
將軍七年ニ一度霸位裝飾アル警衛ヲ率ヒ御門
ノ皇居ニ詣リ并謁ス其七年ノ間ニ於テ將軍ヨ
リ使者ヲ以テ神聖ナル皇帝ニ華麗ナル許笏ノ
献貢物アリ其使者ノ飯ルニ臨テ皇帝ヨリ賜フ
所ノ物ハ實ニ價ヘモナキ祈禱ノ神符ノ類ナリ

トリ
日本人ニハ等ノ世業クハレワシタリ、アリ其家ニ
生ル、者ハ格外ノ事故アルニ非レハ永世他業
ニ轉スルヲ許サス
第一等○帝國ニ隸屬スル累世ノ公侯公家大少
ハナル
第二等○右公侯ノ一等下級ニ屬スル累世ノ貴
族從來ノ旗本及ニ諸家○此貴族ハ右ノ公侯ニ
從事シテ軍事ヲ勤ム各采地アリ若シ日本國中
ノ貴族ヲ一ニ合スル時ハ悉ク將軍ニ屬シテ軍

務ニ出ツ此貴族ノ士臣ハ其封内ニ在テ貴族ノ
政令ヲ受ケ各其軍事ヲ勤ムル等級アリ此等級
ノ内ヨリ國內縣令軍位ノ隊長諸務ノ士官等ヲ
撰擧セリ

第三等○總テ教法ニ關係スル者○日本古代ノ
教法ニテ即チ神道ニ奉事スル者及ヒ佛徒是ナ
リ

第四等○第二等ノ貴族ニ從屬スル士及ヒ卒
右ニ舉ル四等ノ位階ハ日本國中ノ上等ノ階級
ニシテ其衣服ニ各特許ヲ得テ着スル者アリ且

其腰ニ兩刀ヲ佩ヒ寬キ袴衣ノ如キ者ヲ着用ス
常人漫リニ之ヲ着用スル事ヲ得ス

第五等○醫師政府ノ史官業家使官○此等級ハ
中等ノ上級トス

第六等○巨商オホシヤ舖商コリアシヤ○日本ニテハ商戸ハ其貧富
ヲ論セス悉ク皆下等トシ交易ヲ以テ其業トス
日本ノ富家ハ皆此等級ニ在テ豪富ト稱スル者
モ漫リニ其家財ヲ奢侈遊樂ニ費ス事ヲ許サス
嚴禁アリテ之ヲ制止セリ又商戸ハ大家ノ公候
ニ數千金ヲ献シ其許可ヲ得サレハ一刀ヲモ佩

ル事ヲ得ス

第七等○此等級ハ下ニ挙ル一種ノ賤エヲ除ク
ノ外コアキンドニナヒウリアキント小高檐賣高工人手工人画工ノ類

第八等○水夫漁夫農夫雇夫ノ類○日本國ノ農
夫トイヘルハ往昔西洋世祿ノ時ノ家僕ノ類ニ

テ其地ニ土着シ地主ニ從事スル者ナルヘシ又
他人ノ地ヲ借り耕作シテ收納ノ時ニ至リ其得

ル所ノ數分ヲ地主ニ收ムル者ナリ○
第七等ニ挙ル一種ノ賤エトイヘルハ日本ニ於

テ神道ト稱スル一種ノ尊キ道アリ此神道ノ法

ニ於テハ大ニ死物ニ觸ルハ事ヲ禁止セリ其死
物ニ觸レ忌ム所以ノ本ハ未タ之ヲ詳ニスル事
アタハサレ共獸類ノ表皮ヲ剥キ之ヲ以テ器物
ヲ製シ汚穢ノ物ヲ處置スルヨリ賤エトスルナ
ルヘシ即チ穢ニ多シ此賤エハ常人ノ居住スル市街
村落ニ雜居スル下ヲ嚴禁セラレ民口ノ數ニ入
ル事アタハス又平常ノ茶店ニ休息シ酒樓ニ登
ル事ヲ許サス若シ旅行シテ飲食スル時ハ人家
ノ戶外ニ立テ自ラ携フル所ノ食器ヲ出シ并謝
シテ之ヲ受ク賤エカ一度用ヒタル食器ハ日本

人一人ニテモ之ヲ用ヒ之ニ觸ル、者ナシ日本
中ニ於テ刑罪人アル時ハ賤工ニ命シテ殺戮セ
シメ又獄吏ヲ勤ム其常人ニ避ケ忌ル、事古代
ノ癩疾人ノ如シ
日本國ニ於テ右一等ノ公候ヨリ士民ニ至ル迄
一政ニテ領スル事ヲ示スニ先テ元來此帝國內
ヲ六十六州或ハ六十八州ニ分ツ事ヲ示シ以テ
省官ニ便ニセン夫レ帝領日本國ハ往古ヨリ獨
立不羈ニシテ域内ノ公侯貴族相分レテ之ヲ領
シ來レ共謀反スル者アレハ悉ク之ヲ没収ス其

没収スルニ方テハ古來數十ノ公侯其四邊ヨリ
攻メ圍ミ謀反シタル者ヲ撃テ之ヲ四方ニ分散
セシム是故ニ往古ノ數ヨリハ漸ク減少シタレ
共公侯貴族ノ領國士官ノ采地將軍ノ領國將軍
ノ市街等悉ク之ヲ算フレハ其管轄今尚六百四
十ニ減セス將軍ハ其管下ノ領國ト市街トヲ領ス
トイヘリ
一〇將軍ノ管下二十三名ノ大議官アリ將軍ニ
代テ其管内ヲ領ス大議官十三名ノ内ニテ五名
老中ニハ上ニ述ル世祿家第一等ノ公候ヨリ撰

挙ニ自餘ノ八名若年寄ノ類ハ上ニ挙ル第二等
ニテ公侯ノ次官ノ貴族ヨリ撰挙セリ此十三名
ノ大議官ノ上ニ最大議官一名大老シナアリ其職
掌權威ハ杜耳拾國ノ大國老ト称スル者ニ似タ
リ是レ即チ帝國日本ノ主宰ニシテ餘ハ悉ク此
一人ニ從属スレハ百事大小トナク悉ク一人ニ
決シ褒貶黜陟ノ權其掌中ニ在リ又域内ノ公侯
貴族ヨリ百事ヲ建白シ或ハ死者ノ罪状ヲ免シ
或ハ死者ノ遺書ヲ以テ罪科ノ裁断ヲ請フ事ア
ルニ當テハ悉ク之ヲ決ス加之此最大議官ハ將

軍ノ廢立ヲモ決スル大權アリ又大事ノ決断ニ
難キ事アリテ最大議官ノ決ヲ取り將軍ニ建白
スレハ將軍モ再議猶豫スル事ナク少クハ其意
ニ從フト云ヘリ然レ共將軍ヨリ之ヲ處置スレ
キ方法ヲ示ス右十三名ノ高官ハ世官ナルヤ否
未タ之ヲ詳ニスルヲアタハス此高官ノ次官ニ
左ノ官負アリ
二〇次官ハ其位階甚タ高下アレ共皆貴族ヨリ
出ツ勘定奉行外國奉行所奉行郡奉行等ナリ御
門ニ關係アル貴族ハ此官負ニ關ルヲナシ

三〇 附屬貴族ト稱スル者アリ附家老ノ事 其居
長ニ屬シテ其部下ノ諸所ニ散居スル者ヲ指令
ス然レ共將軍ト大議官ノ許可ヲ得サレハ一事
ヲモ決スル事アタハサレハ唯虛名ノミ屬官ニ
テ間諜ニ類ス其君長タル人不臣ノ心アラシキ事
ヲ恐レ其公私ノ所為ヲ監察セシムカ爲大議
官ヨリ此二人ノ貴族ヲ長官トシ尚竊ニ數十ノ
官員ヲ遣シ常ニ之ヲ探索セシム此二人ノ貴族
ハ監察官ノ如キ者ナレハ一時ニ兩人在國スル
事アタハサル法制ニテ其家族ヲ江戸ニ居住セ

シメ人質トシテ一年毎ニ交代セリ是故ニ兩人
ハ互ニ其非ヲ探リ又他人ノ行跡ノ過失ヲ察シ
大ニ心ヲ用ヒテ處置スレ共嫉妬ノ心アレハ其
政令決定シ難キ事アリ
前章ニ述ル如ク兩人相對シテ其非ヲ探リ公事
ヲ勤ムル所ヲ以テ考フレハ日本國ノ政体悉ク
皆此類ニテ各人互ニ其過失ヲ探索シ之ヲ報告
スル風習ナレハ蓋國ノ人皆監察官ノ如クナレ
共人皆之ヲ知ラサルナリ是故ニ上ハ御門將軍
ヨリ最大議官大議官附屬官其他大小ノ官員及

農商ニ至ル迄悉ク監察官ノ内ニ在テ常ニ其過
失ヲ探索セラル又市街田舎ニハ五人宛ノ會社
ヲ設ケ各其所業ヲ探索セシム是故ニ此五人會
社ノ内ニテ一人過失アル時ハ四人ヨリ之ヲ其
長官ニ訴ヘテ護責ス斯ノ如キ政体ナレハ世ニ
日本政府ヲ稱シテ索隱政体ヲコフスルニメシト
イフ
上ニモ述シ如ク日本ニ於テハ御門モ將軍モ其
身ヲ以テ自ラ自由ニスル事アタハス是故ニ將
軍ハ御門ニ罷ヲ得テ其身ヲ自由ニセシ事ヲ欲

シ最大議官ハ將軍ノ罷ヲ得テ其身ヲ自在ニセ
シ事ヲ欲ス斯ク互ニ相信セズ相怯レテ之ニ背
ケハ遂ニ罪料ニ處セラル、ニ至ル最大議官ヨ
リ將軍ニ建白セシ事ハ明亮ナリトシテ大半許
諾アレ共悉ク検査ナク許容アルニモ非ス是故
ニ將軍許容セサル事アリシ時ニハ其事ヲ將軍
ノ近縁アル三家ニ下シテ商議セシム之ヲ商議
ノ結局トス此時三家將軍ノ説ト同意セサル時
ハ將軍其職ヲ辭シテ之ヲ其子若クハ其近親ニ
讓ラサル事ヲ得スサレハ將軍モ全ク最大議官

ノ説ヲ変スヘキ推勢アルニ非ス又之ニ反シテ
三家全ク將軍ノ説ニ同意スル時ハ其初此事ヲ
建白シタル最大議官及ヒ此事ニ關係シタル同
席ノ人自殺セサル事ヲ得ス又政務ニ過失アリ
シ時ニハ最大議官ヨリ大議官ニ至ル迄悉ク自
殺シテ其罪科ヲ謝スル事アリ

四〇公侯ノ領内モ右ニ述ル將軍ノ政府ト同一
ニシテ唯大小ノ別アルノミ官負ノ區分其辭職
及ヒ毎年其收納ヲ配分スル等更ニ異ナル所ナ
シトイヘリ

五〇將軍管下ノ邦國及ヒ郡縣ニハ最大議官ト
大議官ト會議シテ貴族ノ内ヨリ二人ヲ撰テ奉
行トシ又監察官ト其屬官トヲ命シ尚其部下ニ
主計間諜等ノ小吏アリ
間諜ニ數等アリ皆世祿公侯ノ下等ノ貴族ヨリ
勤ム其間諜ヲ勤ムルニ當テハ姓名ヲ變シ生業
ヲ變シ務テ下賤ノ体ヲ示ス既ニ此任ニ命セラ
レタル者ハ身命ヲ抛ツヘキ事アルト云ヘリ斯
ク賤役ニテ且危キ事アレハ諸人ヲクハ忌ミ嫌
ヒ之ヲ避レ共又其昇進ニ速ナレハ心中ニ期ス

ル所アル者ハ其高位ニ登ラシカ爲勤ムル者モ
アルナルヘシ
日本ノ事跡ニ精キ者ノイヘル一奇談アリ松前
奉行其政務ニ於テ過失アリケレハ土人之ヲ最
大議官ニ訴フ最大議官間諜ヲ遣シ密ニ奉行ノ
過失ヲ探索セシム此時其間諜ニ命セラレシ人
忽チ姓名ヲ変シ煙草舗ノ截手ト爲テ松前市中
ニ赴キ煙草舗ニ雇ハレシカハ市人皆截工截手
ト呼テ親ニ居ケルカ一日出奔シテ遂ニ飯り未
ラス諸人大ニ怪メリ其後久シカラスシテ奉行

急ニ免職ヲ命セラレ新奉行ノ来ルヲ見レハ豈
圖ラシヤ前日出奔シタル煙草舗ノ截工ナレハ
諸人皆大ニ驚キシトナシ是レ即チ貴族ノ公命
ヲ奉シテ間諜ト爲リ賤役ヲ勤メシ一證ナリ
日本ニ於テハ世界ニ稀ナル自殺又官府ヨリ死
ヲ賜フトイフ事大ニ行ハル某氏過失アルニ当
リ或ハ其身過失ナシト虽モ同僚過失アリシ時
ニハ其劊手ノ爲ニ殺害セラレシヨリハ寧ロ自
ラ其腹皮ヲ屠リ臟腑ヲ出シテ死スルノ潔白ナ
ルニ如ストイフニ出ツ既ニ其人自殺スレハ罪

新消滅シテ家祿ヲ失フ事ナク家族モ誅戮ヲ免
ル、ヲ以テ他人ヨリモ自殺ヲ勸ム又高貴ノ官
員ニ在テハ同僚ノ過失アリシ時ニモ自殺スル
ヲ以テ面目ノ事トス是レ全ク將軍ノ爲ニ身命
ヲ抛チタルトシ其父過失アリテ自殺スレハ其
子褒賞セラレテ多クハ高官ニ拔擢セラル、ナ
リ
日本ノ習俗制度今日ニ至リ尚頑固ニシテ更ニ
開化セサルハ前條ニ載ル所ヲ以テ察ス可日本
ニニ怜悯ニメ阜見ヲ備ヘタル人アリテ新法ヲ

設ケ旧弊ヲ一掃スル英傑ナキニ非レ共新法ヲ
建白シテ採用セラレサル時ハ其罰ノハナク夕
シキヲ恐レ建言スル者ナシ又既ニ官府ニ於テ
評論ニ採用スヘカラサルト一決セシテ再ニ
最大議官ニ奏スル者ハ死刑ニ行ハル又國家ニ
裨益アル美事善政タリト虽古法旧例ニ異ナル
事ヲ企ル者アレハ同僚ヨリ之ヲ建白シ或ハ間
諜ヲ送テ之ヲ探索シ國法ニ背ク罪人トシ必ス
死刑ニ處セラル、常律ナレハ公侯貴族モ沈黙
シテ口ヲ開ク者ナシ況ヤ諸人ハ五人ノ會社ニ

揭示スル所ノ政令ニ少シニテモ背ク事アル時
ハ其長官ニ報告シ忽チ罰ヲ蒙ルヲ以テ善事良
策アリテモ更ニ之ヲ述ル者ナシ斯ノ如キ政体
ナレハ密ニ百事ヲ検査シ其善キ者ヲ採用シ新
法ヲ興シ産業ヲ一変スルヲアタハス是故ニ百
事皆數百年前モ今日モ同様ニテ少シモ進ム事
ナシ是レ歐洲人ノ屢々日本ヲ外國ト交通セシ
メン事ヲ謀テ其功ナキ所以ナリ
日本人多クハ國內ニ惡俗ヲ生スルハ外人ト交
通スルヨリ起ルトシ堅ク之ヲ禁ス又外人ノ卓

見アル者ハ從來ノ嚴禁ヲ破リ一變セハ久シカ
ラスシテ開化ニ赴カント之ヲ謀リタレ共各國
敢テ日本ヲ開ク事ヲ謀ル者ナシ斯テ此終ナラ
ハ際限ナキ事ナルヲ以テ今我カ亞國ニ於テ日
本ノ古來久ク頑固ニシテ變セサル國法ト旧習
トヲ破リ一兩港ヲ開キテ條約ヲ結ビ以テ日本
ノ外國ト交通スル初歩トセリ然レ共日本人固
ヨリ疑念深ク且方氣アレハ其開化ノ道ニ赴ク
迄ハ尚數十年月ヲ費スヘシ儲日本人ハ本ヨ
リ外國人ヲ忌ミ嫌フ風習サレハ我國人條約中

ニ舉ル所ノ箇條ヲ取り行フニモ大ニ心ヲ用ヒ
テ日本人ヲ驚カシムル事ナカレ斯ク深ク心ヲ
用ヒサレハ彼等カ為ニ捕縛セラレ或ハ中斐シ
テ既ニ開キシ港マテ閉ルニ至ルモ計リ難シ是
レ我カ國ヨリ日本ニ在留スル代人官ニ關係ス
ル所ニシテ此官ニ任スル者ハ溫柔ニシテ愛敬
ヲ主トシ信義ヲ尽サスンハアルヘカラサル所
以トス若シ誤テ此官ヲ荒然タル人物ニ任スル
時ハ既ニ結ヒタル條約ヲモ忽チ破ルニイタル
ヘシ

日本ノ政体ハ既ニ述ビ如ク多ク間諜ヲ使フ風俗
ナレハ日本ノ事情ニ明ナル学者及ヒ我カ同行
ノ諸士如何ナル性質ノ人物ヲ撰テ代人官ニ任
セントスルヤ我今之ヲ諸氏ニ問ハントス凡ソ
日本國ノ高官及ヒ士官外人ト交通シ且論談ス
ルニ陽ニ信義ヲ顯シ陰ニ虚偽ヲ行フテ耻ル所
ナシ然レ共此惡俗國中舉テ然ルニ非ス某氏等
ノ説ニ日本人ノ性質ヲ舉示シテ他人ト交通ス
ル事ヲ好ミ又事實ヲ隱匿スル事ナク歐洲人ノ
風アリテ高致ヲ備フル人物トイヒ又日本人ハ

其史中ニ載ル如ク東海諸國ノ稍々閑ケタル邦
國ニ傑出シ才氣アリテ活潑ナル性質ヲ備ヘ且
頗ル穎敏ニシテ大ニ勇氣ヲ備フトイヘリ斯ク
其性ノ美質ナルニ多ク間諜ヲ用ユル風習ニテ
皆其官員ヲ虚位ニ置ケハ事ヲ正實ニ行フ者ナ
シサレハ在職ノ人ハ其上官ヨリ罰セラレント
ヲ恐レ狡猾ヲ以テ之ヲ遁レントノミ謀ル是レ
其常体ナリ無職ノ人ハ甚々質朴ニシテ誠実且
ヨク賓客ヲ愛スル性アリ「マクハラ子氏ノ説ニ
土耳格ノ官員ノ習俗ヨク日本ノ風習ニ類似ス

トイヘリ土耳格國ノ平士ハ其官員ト全ク相別
レ甚々質朴誠実ナレ共其政府ノ官員ハ詐偽狡
猾多シ然レ共是レ表面^{ウツマキ}ノミニテ其内事ニ至ラ
ハ甚々齟齬スル所アリテ稍々日本ト異ナルナ
リ
日本國ノ政治ノ慘酷ナルハ實ニ甚シ世界中未
タ曾テ日本ノ如キ嚴ナルヲ聞ス罪科アレハ大
半死刑ニ行ハル日本國ノ法律ニ於テ一科ヲ犯
ス者ハ必ス他科ヲ犯スト定メ又自ラ好テ法度
ヲ破ル者ハ生命ヲ全フレ人間ニ存スヘカラス

ト定メ衆皆之ト交通セス
日本ノ法律ハ甚タ簡短ニシテ解シ易ケレ共其
体一樣ナラスシテ他ヨリ之ヲ論辯スヘカラス
其管下ノ人民法律ニ倣ヒ甚タ單純ナリ日本域
内ニ於テイマタヒトニカワツテハウラトクヒト
ノヘツシヨリローケル代辯法律家トイフ者アラス事
アレハ各人皆自ラ其廳ニ出テ辨說セリ譬ヘハ
爰ニ甲乙ノ兩氏アラン甲氏乙氏ノ為ニ損害ヲ
受ケ或ハ創傷ヲ蒙ル時ハ甲氏之ヲ官廳ニ訴フ
是ニ於テ官廳ヨリ人ヲ送テ乙氏ヲ呼フ此時モト
ヲアラ
ウツヘシ
イネント訴人自ラ其歎訴スル事情ヲ述フウツヘシ
イネント被訴人ウツヘシ
イネント之ニ答

フ廳官兩氏ノ問答ヲ詰問シテ其何レカ虚何レ
カ実ナルヲ判シ裁断シテ罪状ヲ決シ直ニ之
ヲ其罪科ニ處ス此時廳官甲乙何レカ虚何レカ
実ナルノ證徴ヲ探知シ得ルモノハ大ニ其聰明
ナルヲ稱セラレ
大事ノ爭論ヲ裁断スル時ニ當テハ廳官ヨリ大
議官ニ達シテ將軍ニモ建白スル事アレ共小事
ハ皆自ラ之ヲ決ス又小事ハ廳官ヨリ甲乙ノ兩
人ニ此爭論ハ官府ヲ煩ハサズ各自ラ處置スヘ
キ事理ヲ諭シ或ハ強テ之ヲ訴フル時ハ却テ後

害アルヘキ事ヲ承諾セシメテ其家ニ返シ友人
ヲシテ兩人ヲ和議セシムル事アリ若シ又甲乙
兩人共ニ過失アル時ハ兩人ニ謹慎ヲ命ジテ其
家ニ返シ家産ヲ勤ノシムル事アリ日本國ノ刑
法ハ既ニ云ヘル如ク残酷ニシテ實ニ殺伐ヲ極
ム是故ニ司法ノ官負仁愛ノ心情起リテ法律ヲ
變セサル事ヲ得サルニ至ルナリ
司法ノ廳官罪人ヲ死刑ニ處スルノ權アレ共他
人ヲ殺害シタル者ニ非レハ漫リニ死刑ニ處ス
ル事ナシ是故ニ廳官大ニ心思ヲ勞シテ檢査シ

罪人アレハ之ヲ「^クヤ^リナ^ル」壽人考ヘフルニ牢屋ノ誤
ラ^イフナ^リ事ニ捕フ其入牢中ハ美麗ニシテ清
潔ナル食物ヲ分量ニ与フ壽人又考フルニ以上
タルヲ揚屋ニ入レ然レ共平常ノ罪人ハ奉行ノ邸
内ニ「^コク^ヤナ^リト^称スル牢獄ヲ作テ其内ニ繫
キ漸ク其身ヲ容ルニ便ニス戸口^ハ僅ニ一口
ニテ拾子ヲ設ケ罪人ヲ出入スル時ノ之開闔シ
常ニ之ヲ開ク事ナシ其食物ハ壁ニ小穴ヲ穿テ
之ヨリ入レ空氣ノ通スル所ハ格子ノ空隙ト屋
上ノ窓ノミニシテ夜中モ燈火ヲ与ヘス書籍煙

管其他心思ヲ慰ムル物品ヲ嚴禁シ又夜具及ヒ
帶ヲモ手ヘスシテ繩ヲ纏ハシメ以テ罪人ヲシ
テ深ク悔ヒ深ク耻シムルナリ其食物モ定限ア
リテ甚タ少シ若シ富豪ノ人罪科アリテ入牢ス
ル時ハ美食ヲ買フテ許サルレ共牢中ノ者ニ
齊シク之ヲ分与セシム○日本ノ國法ハ貴人ニ
テモ又富人ニテモ罪状アル時ハ貧賤ノ者ト少
シモ差別ナク同等ニ之ヲ論ス
既ニ前ノ數條ニテ日本政府ニ於テ數百年來和
蘭ト支那トヲ除クノ外異國人ト交通スル事ヲ

禁止スル政体ノ概畧ヲ述フ然レ共此政体モ久
シク永續セサルヘシ
爰ニ日本政体ノ基原ヲ舉ケ且和蘭人長崎ノ一
港出島ニ商館ヲ開キシ所以ヲ舉ケ以テ學者ニ
示サントス西人ノ此行以前日本ニ於テ長崎ノ
外歐洲船ノ入港セシ所ナク又日本人長崎ノ外
歐洲人ト交易セシ所ナシ支那人日本國ヨリ免
許ヲ得テ些少ノ貿易ヲ行フト雖定禁アリテ制
止セラレレハ和蘭人ノ如ク交易モ交際モ自由
ナル事アタハス今既ニ日本ノ政府及ヒ政体モ

其要旨ヲ撮ミ舉ツレハ又他條ニ移リテ説キ示
サン

第四節

日本國ノ教法

日本國教法ノ事ニ於テハ諸説紛然トシテ其真
説實ニ認メ難シ且歐洲人先年日本國ヲ放逐セ
ラレシ以來ハ教法ノミナラス他事モ亦其真説
ヲ得ル事最モ難シ然レ共日本教法ノ事ニ於テ
諸氏ノ説悉ク同説ニシテ疑ヒナキ者アリ今左
ニ此説ヲ舉ケ示サン

日本國本末ノ教法ヲ「シ」ン「シ」ウノ壽人愚考ニ信神
ト稱ス「シ」ンハ神ナリ「シ」ウハ信ナリ其教徒又之
ヲ稱シテ「シ」ントウト唱フ是レ諸氏ノ説ク所悉
ク同一ナリ然レ共「シ」ト「ボル」ト氏ノ説ニ日本ノ
正シキ稱呼ニテハ之ヲ「カ」ミノ「ミ」子ト唱フ神ノ
道ノ義トイヘリ支那人之ヲ「シ」ン「タ」ラト譯ス日
本人又重訳シテ「シ」ン「ト」ウ「ト」変音セリ
神道ニ於テ至一無ニトシ拜敬スル所ノ者ハ女
日神ニシテ「テ」シ「セ」ウ「タイ」シ「ン」ト唱フ是レ日本
國ニ於テ護國上帝ト稱スル神ナリ天照太神ノ

一等下級ニ数千ノ神アリ是レ皆人体ナリシカ
尊敬シテ神ト称セリ天照太神ニ祈願スヘキ事
アリテモ其神位至高至大ナレハ庶人ヨリ直ニ
願フハ恐レアル事ナルヲ以テ諸萬神ト御門ト
ヲ紹々ト為シ祈請ストイフ御門ハ即チ天照太
神ノ皇胤ナレハナリ神道ニヲイテハ其道ノ諸
神ヲ拜敬シテ佛ノ如ク偶像ニ拜敬スルニハ非
ス又神道ノ殿堂中ニハ佛像ヲ設ル事ナク神像
ヲ備フレ共敢テ之ヲ尊敬スル為ニモ非ス茲ニ
甚タ了解シ難キ者アリ日本國ノ古キ殿堂ニハ

必ス一面ノ鏡ト白紙ヲ數十ニ切テ「ゴヘイ」幣御ト
称スル者アリ是レ共ニ心ノ清潔ナルヲ表スル
ノ具トセリ「シイボル」ト氏カ著書ニ日本ニ於テ
神殿ニ神像ヲ備フルハ佛法ノ日本ニ渡リシヨ
リ後ノ事ナレハ佛像ニ準シ神像ヲ備フル事ニ
変セシトイヘリ又同氏ノイヘルハ日本ニテ数
千ノ神ヲ祭ルハ能ク羅馬國ニ似タルトコロア
リト
マクハルヲ子氏ハ当時日本ニ於テ神道ト称ス
ルハ神道ト佛道ト相通シタル者トストイヒ又

「マ」ラニ氏ハ日本ノ教法ハ上古ヨリ純粹單一
ノ一法アリシトイヘリ西説實ニ一定スヘカラ
ス「シ」ボルト氏カ説ニ據レハ神道ニテ教導ス
ル所ハ人タル者ノ魂魄ハ永代不朽ノ者ニシテ
未來アリ又極樂地獄トイヘル善報惡報アルト
稱シ其教則ニ五教ヲ擧ルトイヘリ第一教ハ各
人常ニ火ヲ清淨ニスル事ヲ要ス是レ其精神ノ
潔白ナル表ニシテ罪科ヲ消滅スレハナリ第二
教ハ心魂ヲ清淨ニシテ身體ヲ愛護スル事ヲ要ス
心魂ヲ清淨ニスルハ事理ヲ辨シ法律ヲ守ラシ

メンカ爲ナリ身體ヲ愛護スルハ凡百ノ汚物ヲ
避ニカ爲ナリ第三教ハ数千ノ神ノ祭日ニ拜禮
スル事ヲ要ス第四教ハ毎年時季ヲ定メ神ヲ參
拜スル事ヲ要ス伊勢參宮第五教ハ神殿ニ到リ
又自宅ニテモ神ヲ拜スル事ヲ要ス此外總テ不
淨ノ者ト交ル事ヲ禁シ不淨ノ音聲ヲ聞ク事ヲ
禁シ獸肉類ヲ食フ事ヲ禁シ獸血ニ觸ル、事ヲ
禁シ又死体ニ觸ル、事ヲ禁ス是レミナ清淨ナ
ルヲ尊ヒ不潔ヲ避ルノ方法ナリ
祭日ニハ各人神殿ニ詣リ殿外ニ備フル水盆ニ

テ手ト口トヲ洗ヒ夫ヨリ殿前ノ腰掛ニ跪キ拾
子ノ内ニ在ル鏡ヲ直視シテ米菓子茶等ノ類ヲ
供ヘ又錢ヲ錢箱ノ内ニ投シテ心事ヲ祈願シ
宅セリ是レ神殿ニ參詣シ神ヲ拜スル通法トス
此錢ハ「カミヌシ」ノ有トナリ其俸給ニ供フ又僧
徒ノ「カミヌシ」アリ又「カミヌシ」ト云フ語ヲ直訳
スレハ神ノ地主ノ義ナリ此僧徒ノ神主神殿ノ
地内ニ居宅ヲ構ヘ能ク賓客ヲ愛ス「シ」ボルト
ノ説ニ神主ニ婦アリ又能ク神教ヲ弁ストイヘ
リ余等カ日本人ヨリ聞ク所ニテハ僧徒ノ神主

ハ婦ヲ迎フル事アタハス
神道ニ於テハ神ニ巡拜スル事ヲ尊フ日本中ニ
於テ大ニ尊敬シテ巡拜スル神社ニ十二所アレ
共其最モ大ニ尊敬スルハ女日神ニシテ即チ伊
勢ノ天照太神ナリ是故ニ苟モ神道ヲ尊奉スル
者ハ其生涯ニ於テ必ス一タヒ伊勢ニ參詣スハ
キ事トス最モ信心ノ深キ者ハ毎年參詣セサル
事ナシ且佛法ヲ信スル者ト雖モ僧体ヲ除クノ
外ハ皆往キ拜セサル者ナシ將軍モ代官ヲ以テ
參拜セシムヘキ命アリ是故ニ毎年將軍ヨリ伊

勢ニ使者ヲ出シ代參セシムトナシ
日本ノ神道ニテ神主トイヘルニ全ク僧徒アレ
共歐洲人ノ説ニ據レハ僧徒ノ神主ノ鼻祖西氏
ヨリ出ツ其甲氏ハ全ク盲人ニテ其乙氏ハ盲人
ノ如キ者アリ其根原ヲ或ル日本人ニ聞シニ甚
夕怪シキ談話アリ數百年前當時ノ帝ノ幼子ニ
セシニミマルル蟬丸トイフ皇子アリシカ日本
ニテ絶世ノ美男子ト稱セリ是レ即チ甲氏ナリ
此皇子皇族ノ一美人ト婚姻ヲ結ヒ互ニ親愛深
カリシカ俄然ニシテ皇女死シ給ヒシカハ蟬丸

大ニ悲歎慟哭シテ遂ニ盲人ト爲リ始メテ僧徒
一派ノ神道ヲ開カレケル乙氏ハ全ク別派ニテ
既ニ前編ニ載ル所ノ賴朝ノ時代ニ當リヘキ家平
ルノ語弊ナリ部下ノ兵隊一團ヲ領スル將官ニカ
ケキコ清惡七共衛景トイフ人アリ平家賴朝ト戰
鬪シテ忽チ大ニ敗績シケレハ景清囚人ト爲テ
禁錮セラレシカ其忠勇ナル芳名日本國ニ夷
キ賴朝モ寛典ヲ以テ愛愍ヲ加ヘ得サルニ至リ
遂ニ禁錮ヲ赦シ對面セリ此時景清賴朝ニ向テ
イヘリケルハ吾今我カ亡君ノ外ニ愛敬スヘキ

人アラス今大君ヨリ恩赦ヲ蒙ルト虽平家ヲ亡
セシハ大君ナレハ敢テ謁見スル事ヲ欲セス願
クハ速ニ我ヲ誅セヨ我カ痛恨ヲ散シ我カ叛心
ヲ消スルハ唯大君ニ再ニ謁見スル事ヲ欲セサ
ルノミ是故ニ我今之ヲ陳述スト云ニ終リ劔ヲ
拔テ自ラ其両眼ヲ剔リ出シ臺ニ載セテ之ヲ賴
朝ノ前ニ出シケレハ賴朝モ駭然トシテ大ニ驚
キ免シ遣シケル是ニ於テ景清閑所ニ退キ隱遁
シテ僧徒神道ニ世ノ祖ト爲リタリ
シシシウカ神宗ニ兩派アリ唯一兩部是ナリ唯一

ハ其法ヲ設クル事甚嚴ニシテ少シモ変革スル
事ヲ許サズ唯一派ハ其数甚タ少ク其神至ハ大
半僧徒ヨリ出ツ西部派ハ神道諸道ヲ精撰セシ
者ニテ佛道ヲモ多ク撰入ストイヘリ
佛法ハ虛無ヲ説テ以テ國人皆之ヲ嫌ヘトモ其
僧徒三百五十萬ニシテ回々教「マホメツト」派ハ日
理カ「ハ」聞キ誤シノ僧徒ハ僅ニ五十萬ニ滿ス此教法
ノ鼻祖ヲサキヤシ「ハ」トイフ日本ニテ釈迦ト唱
フ其徳其法未來ノ善惡ヲ前知セリ死後謚シテ
「「ハ」彌陀」ト稱ス賢者ノ義ナリ彌陀ノ生レタル

年月未タ之ヲ詳ニスル事アタハス凡ソ古代ノ
年數ハ紀元前二千四百二十年アリトイフ彌陀
ハ此年紀ヨリ尚五百四十三年前ノ人トナシ佛
教何レノ年代ニ日本ニ渡リシヤ確定スヘカラ
ス^カラツブロス^シト^ト西氏佛教ノ日本ニ
渡リシ年月ヲ日本人ニ聞シニ其說相同シカラ
ス恐クハ紀元五百年間ニ印度或ハ高麗ヨリ渡
リシナルベシ
佛氏ノ教導スル其大趣意ハ輪迴應報ヲ以テ主
トス是故ニ其教導スル所ニ於テ殺生ヲ嚴禁シ

佛前ニ多クノ物品ヲ供ヘ法王ヲ尊崇シテ萬歳
不死トシ又僧徒等僧官ノ高位ヲ設ケテ之ニ登
リ寺院ノ地畧ヲ定メテ其内ニ獨居ストイヘリ
佛道ニ於テ大ニ禁スル所之ヲ五戒トイフ即チ
五律ナリ五戒ハ生物ヲ殺ス事ヲ戒メ自己ニ其
身ヲ害スル事ヲ戒メ身體ヲ不潔ニスル事ヲ戒
メ虚言スル事ヲ戒メ大酒ヲ戒ム是ナリ又四戒
十教ト稱スルアリ五戒ヲ區分シ用フルライフ
佛法ノ始メテ日本ニ渡来スルヤ政府ニテ許シ
置タレハ僧徒等モ徐々ニ傳ヘテ敢テ之ヲ急ニ

セサレハ其寛典ナルヲ以テ意外ニ日本ノ國教
ト混スル事ナシ西教モ葡萄牙人始メテ日本ニ
其法ヲ唱ヘシ時ニハ廣ク傳播セシカ日本人葡
萄牙人ノ機謀アリテ其教法ニ拘引セントスル
ノ心アルヲ察シ政府ヨリ之ヲ放逐セシナリ日
本ノ信者等ノ西教ヲ厭ヒタルニハ非ス当時日
本ニ於テ佛法ト全ク異ナル所ノ教法三十四科
アリツレ共政府ニテハ寛典ヲ以テ敢テ咎ムル
事ナシサレハ日本政府ニ於テ教法其全國ノ妨
害ト爲ニアラサレハ公平寛大ニシテ制禁セサ

リシハ実事トス日本國諸宗ノ僧徒嘗テ御門ニ
耶蘓教徒ト羅馬教徒トヲ放逐セント屢歎訶シ
ケレハ御門日本國ニ於テ今教法幾派アリヤト
問ヒ給フ僧徒三十五派ト答フ御門之ニ一派ヲ
加ヘテ三十六ト爲スモ何ソ害アラント詔アリ
シトソサレト外人ハ此時皆日本ヲ退キ去リシ
トイヘリ
日本國ニライテ当時其神道佛法ト混淆セシ者
ナレ共國內ノ人民何ノ事故アリテヤ神道ヲハ
多ク信セサル事ト察セラル又西教ハ諸人皆疑

惑シテ用フル者ナシ
城内ノ人民大半佛ノ偶像ヲ信スレ共學者ニ至
テハ別ニ純粹ニシテ至妙至高ノ教法アリテ之
ヲ尊奉ストイヘリ
爰ニ又日本ニ於テ神道ト佛法トノ外ニ諸説ニ
テ皆教法ト称スル一道アリケンヘル氏ハ之ヲ
學師ノ其學校ニ於テ教フル所ノ教法トス此教
ヲ「シウト」儒道ノ誤ト稱ス學者ノ道ノ義ナリ
此教ニ於テハ別ニ信理ヲ説ニ非ス唯古語アリ
テ今日ノ百事ヲ之ニ照シ適應スルヤ否ヤト教

アルノミ此教法ハ能ク「パン」テ「ス」ム天地ヲ以
ル教法ニ類似セシ所アリ是レ其本ハ支那ヨリ
渡リシ教ニシテ「コン」ヒ「ニス」孔子カノ正シキ教法
ト佛法ノ高キ真秘トヲ合セ説タル教法ナルヘ
シ此教ニ於テ別ニ礼法アルニ非ス五典ト稱ス
ル者アリ「ジン」仁「カキ」義「カレ」礼「チ」智「シン」信是ナリ「ジン」
ハ愛敬ノ徳ヲ教フルライヒ「ギ」ハ各人條理ニ
從ヒ端正ニ行フライヒ「レ」ハ嚴正ニシテ謙遜ナ
ルライヒ「チ」ハ政府ノ為ニ善政明法ヲ興ス規則
ヲ設クルライヒ「シン」ハ良心誠意アルライヒ「フ」歐

洲人諸家ノ説ニ日本ニテ學者ト稱スル人ハ大
半此學ニ入り大ニ佛教ヲ輕蔑ストイヘリ掌テ
日本ニテ西教ヲ禁セシ時政府ニ於テ儒道ニ西
教ニ左袒セシ様疑念ヲ生セシ事アリ此時ヨリ
以來家毎ニ佛ノ偶像ヲ備フル事ト爲リタルナ
リ
和蘭國士官「¹」²氏ノ説ニ西教ノ未々日本
ニ渡ラサリシ以前神儒佛三教ノ外ニ尚一教ア
リ此教法ハ「³」⁴トイヘル人ノ起セシ所ナリ
シカ大約紀元五十年間ニ日本ニ渡リタリ此教

法ニ於テ説ク所ハ一處女アリ一男子ヲ産リ此
子イヘルハ今世界ノ衆生皆各々罪科アリ我レ
衆生ニ代テ死シ其罪科ヲ脱シ蘇生セシメント
又此教法ニ無量無邊無形無態ニシテ萬神ノ始
祖ト爲リ萬物ヲ造リシ一神アル事ヲ説キ教フ
トイヘリ
某氏ノ説ニ右ニ載ル所ヲ以テ考フルニ西教當
時既ニ印度ヲ經テ日本ニ傳播セリト然レ共其
説ク所西教ト齟齬シテ大ニ誤レル所アリ且「⁵」
「⁶」氏ノ外ニ此教法アリシ事ライヒシ人ナ

シ然レハ此教法ハ西教ノ本体ヲ知サル無智文
盲ナル者ノ佛法ト「ラム」教トヲ合セ説タル者
ニシテ往時伊斯巴尼亞ノ教師始テ西國ニ来リ
シ時亞人某氏西教ノ經典ハ「スト、トーマス」トイ
フ人アリテ既ニ前年持来レリトイフヲ聞キ大
ニ驚キシ類ナルヘシ



